

令和3年度



学校評価だより

～最終自己評価～
珠洲市立緑丘中学校

今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で、様々な教育活動が変更、制限されましたが、生徒ならびに保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで必要な授業数の確保や、感染症防止の衛生管理体制が維持できました。深く感謝申し上げます。12月にとりました保護者・教職員アンケート、生徒アンケートの結果や自己評価の結果（裏面）をお知らせいたします。

今後も、皆様の声や学校関係者のご意見を指標として、次年度の計画・準備を進めて参ります。令和4年度も本校の教育活動方針をご理解の上、何卒ご協力をお願い致します。

校訓 正義・勉学・友情

本校の教育目標

自ら課題をもち 共に未来を創造し 切り拓いていく人間の育成

目指す生徒像

◇自ら学び、自ら課題を解決しようとする生徒(知育)

◇ルールやモラルを大切にし、誰とでも助け合える生徒(徳育)

◇心と体の健康を大切にし、自らを成長させようとする生徒(体育)

本年度重点項目

①主体的に学ぶ生徒の育成

②自己管理能力、自分で自分をコントロールするための凡事徹底

③学びを実感できる生徒会活動の創造

④小学校・高等学校との連携

①【主体的に学ぶ生徒の育成】・・・評価B

中間評価結果、評価委員からのご助言をもとに、家庭学習については、見通しをもって家庭学習に取り組むことができるように、1か月ごとに家庭学習の範囲を提示したり、家庭学習強化週間において学習委員会が計画表を作成したりしながら、生徒が主体的に学習に取り組めるよう取り組みました。

(重点項目の達成度判断基準の指標：生徒A1, 4, 5, 6 保護者A2, 教職員A1-1, 2, 5, 7)

《結果》

- 教師は緑丘中授業スタイルを意識した「分かる授業」の実践に継続して取り組んでおり、授業は分かると感じている生徒は8割を越えました。しかしながら、生徒が自分の考えや意見を表現することができる項目は14ポイント下がりました。
- 家庭学習においては、イベント的に取り組むことで、学習のきっかけになっている生徒は増えてきましたが、自分で計画を立てて、家庭学習に取り組むことに課題が残りました。

《改善策》

- 教師は緑丘中授業スタイルを意識し、取り組みを継続していきます。また、生徒が考えを表現する場として、授業の中で自分を振り返る場を設定し、自己の変容を自覚化できるように取り組みます。
- 日々の家庭学習においては、提出することを重点とし、各学年で粘り強く取り組んでいきます。また、生徒主体で取り組むことができるよう、リーダー会での企画も盛り込んでいきます。

②【自己管理能力、自分で自分をコントロールするための凡事徹底】・・・評価B

中間評価結果、評価委員からのご助言をもとに、1週間ごとに目標とする行動・キーワードを職員全体で共有して、生徒に声かけをしたり、生徒一人ひとりが活躍できる活動の場を意識的に取り入れたりして、よりよい人間関係づくりに取り組みました。また、凡事徹底を意識させることで、自己管理能力の向上に努めました。

(重点項目の達成度判断基準の指標：生徒A11, 13, 14, 25 保護者A3, 4 教職員A2-1, 2, 3)

《結果》

- 生徒アンケートからは、中間評価後、一定の効果が見られましたが、生徒、保護者アンケートの「学校は楽しい」については、数値の減少が見られました。
- 保護者アンケートからは、様々な悩みや課題をもっている生徒に対して、粘り強く面談や家庭訪問、日々の声掛けを行ってきた成果が見えました。しかしながら、SNSの使用方法や規則正しい生活習慣など、家庭での自己管理について課題が残りました。

《改善策》

- 学校が、生徒一人ひとりにとって、安心・安全に生活できる居場所となるように、人間関係づくりや生徒が主体的に活動できる場を設定していきます。
- 自己管理能力を高めるためにも、「凡事徹底」について、日々の声掛けを大切にしながら意識付けするとともに、目標を明確に持たせ、目標達成するために自己をコントロールできるように取り組んでいきます。

③【学びを実感できる生徒会活動の創造】・・・評価A

中間評価結果、評価委員からのご助言をもとに、集会等を、見通しを持って計画・準備・実行できるように取り組みました。また、生徒集会で個が活かされる場の設定や振り返りをその都度行い、生徒の自己有用感が高まるよう取り組みました。

(重点項目の達成度判断基準の指標：生徒A16, 17 教職員A3-3, 4, 5)

《結果》

- 生徒アンケートでは、集会や行事に参加する項目ではいずれも8割を超えました。定期的な集会の開催により、生徒が主体的に集会に参加したり、より良い行事にするために積極的に参画したりする姿が多く見られ、集会・行事等も活性化しました。

《改善策》

- 生徒集会は、生徒が主体となり定期的開催することができました。また、集会後の振り返りを大切にすることで、次の集会に振り返りが活かされるようになり、集会の内容も充実したものとなりました。今後も、より生徒一人ひとりが参画できるような集会を目指していきます。
- 生徒集会同様に、学年生徒集会やリーダー会の機能化や定期的な開催に向けて取り組んでいきます。

④【小学校・高等学校との連携】・・・評価A

中間評価結果、評価委員からのご助言をもとに、総合的な学習の時間「SuZuSoZo」におけるフィールドワークを充実させ、地域資源や外部の方々から学ぶ機会を確保し、体験活動の充実やふるさと学習の推進に取り組んできました。

(重点項目の達成度判断基準の指標：生徒A18 教職員A4-3, 4)

《結果》

- 生徒アンケートでは肯定的な回答が9割となり、生徒は様々な体験活動から学びが深まったことを実感することができました。3年生は、鉢ヶ崎地区のランドスケープデザインの取組。2年生は、奥能登芸術祭におけるアンケート活動や地元企業の学習会などを通じた積極的なフィールドワークの取組。1年生は、空海伝説巡り、植林活動、海岸清掃などの体験活動や企業とのコラボレーションの取組などが学びの深まりにつながったと考えられます。

《改善策》

- 今後も、体験活動から得た学びを日常に繋げていけるように、事前学習や事後学習で価値づけし、学びが深まり、広がるよう取り組んでいきます。
- 小中間で共通目標の設定を継続し、また各校の担当者ごとの分科会を企画することでより効果的な連携を今後も進めていきます。

